

令和 2 年度 中学入試

[前期 B 入試]

国語科 問題

注意事項^{じこう}

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を^{ふく}含めて 20 ページあります。

試験中に、印刷が見つらかったり、ページが乱れたり^ぬ抜け落ちていることに気づいた場合は、手を挙げて^{かんとくしゃ}監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り^{はな}離してはいけません。

[前期 B 入試]受験番号 _____

金蘭千里中学校

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

論理というのはことばとことばの意味上の関係です。そして論理学はとりわけその中で推論という関係を扱います。これから私は、①「演繹的推論」について話をしていきたいと思えます。(注1) 前提を認めたら必ずその結論も認めなければならぬような(注2) 導出、それがすなわち「演繹的推論」です。そしてこれが、論理学の扱う a タイシヨウ なのです。一点、b ホソク。というか確認。いまの説明に従うと、② 次の例は正しい演繹的推論と言えるでしょうか。

【例】 前提1 タヌキは有袋類である。

前提2 有袋類の雌のお腹には袋がある。

結論 だから、タヌキの雌のお腹には袋がある。

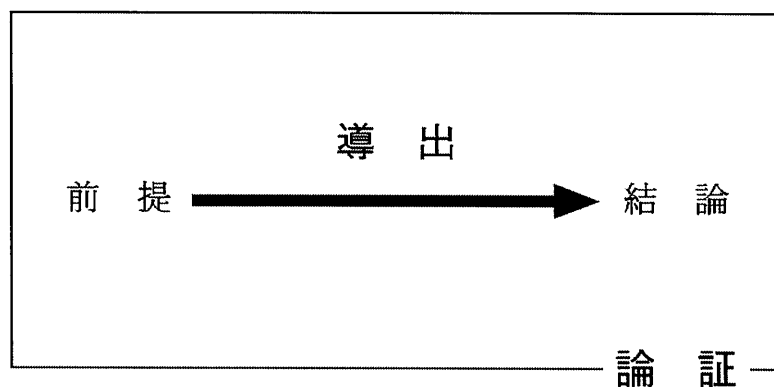
有袋類というのは、カンガルーとかコアラのような動物で、もちろんタヌキは有袋類ではありません。つまり、この前提はまだがっています。うるさいことを言えば、有袋類の雌のお腹には袋があるというのもまちがいで、袋(育児嚢)がない有袋類もいるそうです。そして結論も、まちがっています。まちがいだらけです。では、これは正しい演繹的推論とは言えないのでしょうか。ここで先に与えた c キテイ をもう一度見なおしてください。演繹的推論とは、「その前提から結論への導出が絶対確実な(前提が正しいならば必ず結論も正しくなる)もの」です。この「前提が正しいならば」というところに注意してほしいのです。そこで、いまの推論の二つの前提が正しかったとしてみます。タヌキは有袋類だとする。それから有袋類の雌のお腹にはすべて袋があるとする。この二つが、もし正しいのであれば、そりゃまあタヌキの雌のお腹には袋があるってことも、やっぱり正しくなるでしょうね。だから、これは演繹的推論としては正しいのです。「論証」と「導出」を区別しておいた方がよいでしょう。ある前提からなんらかの結論を導く、その全体を「論証」と呼ぶことにします。それに対

して、前提から結論を導く過程だけを取り出して、「導出」と呼ぶことにします。

導出の正しさは、その前提を正しいと仮定したときにその結論が必ず導かれねばならないのかという点から評価され、前提が本当に正しいかどうかはとりあえず棚上げしておきます。他方、③正しい論証というのは、導出が正しいだけではなくて、その前提も本当に正しいものであることです。そうすると、さっきのタヌキの論証は、導出は正しいけれども前提がまちがっているのです。全体としてはまちがった論証になっていることになります。こんなふうに論証と導出を区別することは、実はとてもだいじなことです。d テイジされた論証の正しさを評価するときに、その区別がないと、とくにその論証がまちがっている場合、いったいその論証のどこがだめなのか、(注3) 明晰になってきません。いつまでたっても気分と雰囲気ふんいきで「なんかそれ、ちがうみたい」で終わってしまいます。前提の正しさは、たとえばタヌキは本当に有袋類なのかどうか、有袋類はすべて育児嚢をもつのかどうか、こうしたことは事実じじつに関わるかかることです。信頼しんらいできるひとに聞くとか、事典を調べるとか、あるいは自分で調べてみるとかして、その正しさを確かめることになります。他方、④導出の正しさはそうした事実にはいっさい関わりません。どんなインチキくさい前提でもいいんです。その前提が正しいと仮定する。そこからその結論が必ず導出されるかどうか、そこに、演繹的推論の正しさのすべてがかかっています。

さて、論理学が扱うのはまさに演繹的推論です。つまり、前提が正しいならば必ず結論も正しくなる、そういう推論です。そこで、論理学の観点から言えば、「論理的なひと」とは、演繹的推論を正確に、しかもかなりe フクザツなものまで、正確に理解し、そして自分でも作り出せるひとのようになります。逆に、「非論理的なひと」というのは、単純に言っただけでもないひとのことですが、これはさらに二種類に分類できるかもしれません。ひとつは、そもそも演繹的推論なんかしようともしないひと。これは、(あくまでも論理

<参考図>



学の観点から言えば) 論理とは無縁むえんのひとつということになるでしょう。⑤「非論理的」というより「無論理的」とか言いたくなります。もうひとつは、がんばって演繹的推論を行うのだけれども、どうにもしよっちゅうまちがえてしまうひと。どっちがたちが悪いのでしょうか。それぞれ別のたちの悪さでしょうか。

(野矢茂樹『入門! 論理学』より 一部改めたところがある)

(注1) 前提……ある事が成り立つためのものになる条件。

(注2) 導出……みちびきだすこと。特に、結論をひきだすこと。

(注3) 明晰……明らかではっきりしていること。

(一) 太線部 a s e のカタカナを漢字に直しなさい。

a タイシヨウ b ホソク c キテイ d テイジ e フクザツ

(二) 傍線部①「演繹的推論」について、次の各問いに答えなさい。

(i) 「演繹的推論」について説明した次の文の X Y に入る言葉を、本文中からそれぞれ二字で抜き出さない。

【正しいと仮定された X から Y を導き出すこと。】

(ii) 「演繹的推論」の具体例としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一年一組の生徒A、B、Cの三人が学校を休んだ。AとBの二人は風邪で学校を休んだ。だから、Cも風邪で学校を休んでいると考えられる。

イ 一年二組では六人の生徒が学校を休んだ。欠席者のうち四人は風邪で学校を休んでいる。だから、一年二組では風邪が流行していると考えられる。

ウ 一年三組の生徒は全員消しゴムを学校に持ってきている。生徒Dは一年三組の生徒である。だから、Dは消しゴムを学校に持ってきていると考えられる。

エ 一年四組では、携帯電話を持って来ない方が良いとされている。生徒Eは一年四組の生徒である。だから、Eは携帯電話を学校に持って来ないと考えられる。

オ 一年五組で算数の宿題が出された。一年五組の生徒全員が期限内に宿題を終わらせて提出した。だから、一年五組の生徒は全員算数が得意だと考えられる。

(三) 傍線部②「次の例は正しい演繹的推論と言えるでしょうか」について、次の各問いに答えなさい。

(i) 本文中の【例】は演繹的推論として正しいと言えるか。正しい場合は○を、正しくない場合は×を、解答欄に記しなさい。

(ii) iの解答の理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前提をすべてまちがっていると認めているため。

イ 前提2が事実として正しいため。

ウ 前提から結論への導出が正しいため。

エ 前提1が事実としてまちがっているため。

オ 前提から結論への導出がまちがっているため。

(四) 傍線部③「正しい論証」の説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある前提からある結論を導き出す手段のこと。

イ 本場に正しい前提をもとに結論を導くこと。

ウ 結論が正しいかどうかを判断する材料のこと。

エ まちがった前提から正しい結論を導き出すこと。

オ まちがった結論を導き出した理由を調べること。

(五) 傍線部④「導出の正しさはそうした事実にはいつさい関わりません」と筆者が述べる理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 導出や論証はことばとことばの関係を扱う考え方であり、前提がまちがっていても必ず事実として正しい結論になるから。

イ 前提から結論を導き出す過程そのものが導出であるため、その結論が事実として正しいかどうかは導出の正しさとは関係がないから。

ウ 導出は結論を導き出すことそのものが大切であり、たとえ前提に反した結論が導き出されたとしても導出そのものは正しいと言えるから。

エ 導出が正しくても正しくなくても、正しい前提からは必ず正しい結論が導き出され、導出が事実えいきょうに影響を与えることがないから。

(六) 傍線部⑤「非論理的」というより「無論理的」とあるが、「非」「無」という漢字は「未」「不」と同じように言葉の前に付くことでその言葉を打ち消す役割を持つ。次の語群の言葉を打ち消す場合に、言葉の前に付ける漢字として「非」が付くのが適切なもの、「無」が付くのが適切なものをそれぞれだけ選び、記号で答えなさい。

語群へ ア 理解 イ 常識 ウ 成熟 エ 誠実 オ 透明^{とうめい} カ 関心

(七) 本文の内容と合うものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まちがった前提からどのような導出をしても、演繹的推論では確実に正しい結論が導き出せる。
イ この世にいるすべての有袋類を実際に調査しなければ、有袋類についての正しい演繹的推論はできない。
ウ 前提が正しいものであり、演繹的に正しい導き出しができていけば、その結論は必ず正しいものになる。
エ 導出とはある前提からなんらかの結論を導き出し、その結論が事実として正しいか調査するものである。
オ 「非論理的な人」の中には、論理的な思考が好きな人と論理的な思考が好きではない人の二種類がいる。

② マチのいる中学一年五組は、十月の文化祭で合唱をすることになった。以下の文章は、その練習風景から始まる。次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人はただ 風の中を 迷いながら 歩き続ける
足を肩幅かたはばに開いて床ゆかにしっかりつけ、声を出すのが、朝の練習はまだ体が完全には声を出す態勢に入っていないのか、歌っている最中でも、自分たちの声が出ていないのがわかった。

文化祭で歌う『遠い日の歌』の、ソプラノのパート練習。

オルガンで音を取りながら、一度通して歌い、二度目の練習に入る。すると、途中とちゆうで、教室の後ろのドアが開いて、ソプラノのパートリーダーである琴穂ことほが顔を出した。

「ごめん！ 部活の片づけで遅おくれちゃった」

オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉いっせいに歌うのをやめて、声の方向を見る。琴穂が顔の前で **A** を合わせて「ごめんごめん」と言いながら駆け寄よってくる。

「本当にごめんね。今どこ歌ってた？」

「——いいよ、もう一度最初からやろう」

すぐに練習が再開され、琴穂も加わったが、歌い始める前に、マチの後ろで「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよね」という小さな声が聞こえた。① 自分①自分のことではないけど、ドキンとする。聞いてはいけない気がするのBに、**B**が勝手に声の続きを聞いてしまう。

「リーダーなのに、やる気あるのかな」

琴穂は、朝練習を遅刻ちこくすることが多い。その上、放課後も部活を理由に早めに練習を切り上げ、他のみんなを残して先に教室を出ていってしまうことがよくあった。

歌った後で、それぞれグループごと、自分たちの歌の悪い部分について話し合う。

教室の隅すみから、アルトの女子の声が聞こえてくる。自分たちのソプラノより歌声がまとまっているように聞こえて、この

ままじゃ合わせて練習したときに a セイリヨウが負けてしまうのではないか。つられてしまうのではないかと心配だ。アルトのリーダーであるみなみの声が一際よく聞こえる。

マチがみなみの方を見ていると、琴穂が「ねえねえ」と話しかけてきた。
i 合唱に関することだろうと振り向くと、いきなり「聞いてみた？」と聞かれた。

「何を？」

「みなみと恒河のことだよ。夏休み、自由研究一緒にやったんでしょ？ あの二人、つきあってるの？」

小声になって関係のない話をしようとする。

その言葉を聞いた途端、ふいに、マチの胸の中でたくさんの感情が一度に揺れ動いた。

『リーダーなのにやる気あるのかな』

さつき聞いたばかりの声を思い出したら、悲しくなった。本音を言えば、琴穂に真剣に練習して欲しいのはマチも同じだ。

「②ちゃんと練習、しようよ」

とつさに飛び出した声が我ながら冷たく聞こえて、驚いた。琴穂が「え」と短く声を出す。きよとんとしたその表情を見たら、もう一押し、声が止まらずに出ってしまった。

「しっかりやろうよ。琴穂、遅れてきたのに、関係のない話したり、全然、みんなに悪いと思ってる様子がないよ」

琴穂が C を見開いた。ショックを受けたのだと、表情でわかった。わかった途端、喉元が苦しくなって、それから全身が熱くなる。顔を伏せて、琴穂から離れた。

ややあつて、背後から「わかった」と琴穂の声が答えた。思いがけず素直な声だったせいで、琴穂が沈んだ様子なのが、振り返らなくても伝わってくる。マチが返事をするより早く、「じゃ、もう一度ね」と他の子の声がして、歌の練習がまた始まってしまふ。

声がうまく出なかった。息が苦しかった。

練習が終わった後で様子を見ると、琴穂は D を俯けながら席に戻るところだった。③マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した。

そのとき、「マチ」と呼びかけられた。さつき、琴穂の遅刻を責めていた子たちだ。

「琴穂のこと、ありがとう。マチみたいなきれいな子が注意してくれると助かるよ」

こっそりと囁くような声に「ううん」と首を振る。bカンシヤされるようなことは何もない。黙って一人で席に着いた琴穂のことが気がかりだった。

その日は一日中、同じ教室の中で琴穂と気まずい時間を過ごした。

「どうしたの？ マチ、元気ないね」

「そんなことないよ」

みなみの声にも首を振る。誰にも、これ以上何も言いたくなかった。

一人で帰る前に、図書室に本を返しに寄る。本と紙の匂いに包まれた大好きな場所に入った途端、④全身から力が抜けて、泣き出しそうな気持ちになった。明日から、琴穂とどう顔を合わせればいいのかわからなかった。合唱練習は明日もあるのに。

そのとき、図書室の奥の壁沿いに並んだ百科事典が目にとまった。見えない「誰か」と続いている文通。次にメモを残すのはマチの番だった。

本を手に取り、いつもより長く、手紙を書いた。

『真面目だ、いい子だ、と言われると、ほめられているはずなのに、なんだか苦しくなる。はっきり言えないことを優しいって言ってくれる人もいるけど、わたしは本当は自分が人に嫌われたくないからそうしてるんだと思う。わたしは臆病です。』

次の日の朝練に、琴穂は遅刻もせず、時間より早く現れた。

何事もなかったかのように「さあ、練習するよー」と明るい声を出してみんなの前に立つ。マチにも「マチ、おはよう」と普段通り挨拶してくれた。

その声にほっとして、マチも「おはよう」と返事をする。けれど、琴穂が無理をしているんじゃないかと、⑤やつぱりまだ気になった。

その日の放課後、図書室に急いで、ドキドキしながら本を開いた。昨日残した自分の長い手紙に、相手がどんな返事を残しているかを考えると、待ち遠しいような、怖いような気持ちだった。

本を開くと、返事はもう来ていた。いつもより長い。

『断れない、ii 言えない人は、誰かが傷つくのが嫌で、人の傷まで自分でdセオってしまいう強い人だと思う。がんばって。』

——がんばって。

読んだ瞬間、胸がぐっと熱くなった。

手紙を抜き取って、本を元に戻す。何度も何度も読んでから、お守りのように、Eに当てた。便せんの内側が、あたたかく熱を持っている⑥のように感じた。

翌日の練習で、マチは思いきって、琴穂に自分の方から「おはよう」と挨拶してみた。練習用のテープをセットしていた琴穂が、驚いたように一瞬黙ってから、マチの顔を見て、それから、eヒトコキュウについて、微笑んだ。

「おはよう、マチ。がんばろうね」

「うん。——テープ、借りてきてくれたの？ ありがとう」

「一応、リーダーだから」

照れくさそうに、琴穂がマチからぱつと目をそらした。

その日から、ソプラノは、みんなiiiと声が出るようになっていった。

(辻村深月『サクラ咲く』より 一部改めたところがある)

(一) 太線部 a↘ e のカタカナを漢字に直しなさい。

- a セイリヨウ b カンシャ c ト(まった) d セオ(って) e ヒトコキュウ

(二) A↘ E に入る言葉としてもっとも適切なものを、次の語群からそれぞれ選び、解答欄に記しなさい(同じ言葉をくり返し選んではいけません)。

語群へ足 胸 口 耳 鼻 目 手 顔

(三) 傍線部①「自分のことではないけど、ドキンとする」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中

中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分もいつか陰口かげぐちを言われるかもしれないと思ったから。

イ 琴穂に対する批判を聞くのは、よくないような気がしたから。

ウ 琴穂に対する批判が、あまりにも現実とは違うちがものだったから。

エ 琴穂なりにやっているのに陰口を言うのはひどいと思ったから。

オ 琴穂に言おうと決心していたことと同じことが聞こえたから。

(四)

i iii に入る言葉として、もっとも適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えな

さい(同じ記号を二回選んではいけません)。

ア だんだん イ はっきり ウ たとえ エ どうか オ てっきり

(五) 傍線部②「ちゃんと練習、しようよ」とあるが、マチのこの時の感情として適切でないものを、次のア～カの中から二つ選

び、記号で答えなさい。

ア リーダーが合唱の練習に遅れてきたのなら、それ相応のふるまいをするべきだ。

イ 周りの女子が琴穂のことを悪く言っていたと、早く伝えてあげないといけない。

ウ 周りの女子が琴穂のことを悪く言うのはつらいが、自分も琴穂が悪いと思う。

エ 琴穂のふるまいからして、彼女が練習に真剣に取り組んでいるとは思えない。

オ 琴穂のことを傷つけてもいいので、とにかく自分の本音を言うべきだ。

カ 遅れてきたのに、合唱の練習と関係のない話は今するべきではない。

(六) 傍線部③ 「マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思わず感情的になり琴穂に注意してしまったが、それで取り乱した自分のせいで、せつかくのソプラノパートの練習がうまくいかず、申し訳ないと思ったから。

イ 琴穂にはちゃんと練習してほしくて注意したが、自分が注意したことにより、琴穂を少なからず動揺させてしまっているのではないかと思ったから。

ウ ソプラノパートを代表して琴穂に注意したが、それで気まづくなった空気を周りの女子が誰もフォローしてくれず、損な役回りをさせられたと思ったから。

エ 琴穂のためを思っ注意したが、自分とはもう関わりたくないというあからさまな様子を目のあたりにし、取り返しのつかないことをしてしまっと思ったから。

(七) 傍線部④ 「全身から力が抜けて、泣き出しそうな気持ちになった」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の発言によって気まづくなってしまう琴穂との関係について悩んでいたが、お気に入りの図書室に来るとその心の緊張が思わすほぐれたから。

イ 心配してくれたみなみにさえ強く八つ当たりしてしまう自分を責めていたが、図書室で感情をはきだせるクラスメートに会えると思うとほっとしたから。

ウ 琴穂の様子を見る限り、今後元通りの関係にもどるのは不可能だと考えざるを得ないので、今後合唱で周りに迷惑をかけてしまうと思ったから。

エ 琴穂の自分をさける様子は許しがたいものであると思う一方で、琴穂との関係を修復するにはどうしたらよいか思いつかず悲しくなったから。

(八) 傍線部⑤「やっぱりまだ気になった」とあるが、マチが気になった内容として、もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 図書室で自分が残した手紙に対し、もしかしたらすでに返事が来ているのではないかということ。
- イ 琴穂は、部活も合唱もがんばろうとして、どっちつかずになってしまっているのではないかということ。
- ウ 琴穂が自分に対して、つとめて以前と変わりのないように接しようとしているのではないかということ。
- エ 琴穂の何気ないあいさつの言葉にも、自分を非難しているような気配をはっきり感じてしまうということ。

(九) 傍線部⑥「ように」について後の問いに答えなさい。

(i) 傍線部⑥「ように」と同じ意味で使われている「ようだ」を持つ文として適切なものを次のア～カの中からあるだけ選び、記号で答えなさい。

- ア この道は駅まで続いているようだ。
- イ あの選手のようになるつもりだ。
- ウ 彼の見解はまちがっていたようだ。
- エ 灯の消えたようなさびしさだ。
- オ この地域は、柿かきや梨なしのような木が植えてある。
- カ アイドルのように手を振ふってみせた。

(ii) 「ようだ」はiのように色々な形に変化する。次の各文中の()に「ようだ」を、文の意味が通るように変化させて解答欄に記しなさい。

- ・母は、疲^{つか}れている(イ 4字)た。
- ・誰かが来た(ロ 3字)気がする。
- ・はやく走れる(ハ 3字)なりたい。
- ・七時までに起きない(ニ 4字)ば、無理やり起こします。

(十) 本文の内容として、もつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 文章全体が琴穂の目線を通して語られており、合唱の練習に対する認識^{にんしき}があまかったことを友人に気づかされ、だんだん改心していく様子が描^{えが}かれている。
- イ 中学生という思春期の真ただ中にある登場人物が、なかなか自分の思っていることを言えない性格を、それでいいのだと受け入れていく様子が描かれている。
- ウ 異なる価値観をもつ者同士が、時に激しくぶつかり合いながらも、お互いの意見をすりあわせて少しずつ心の距離^{きより}を縮めていこうとする様子が描かれている。
- エ 自分の意見が、時として人を傷つけたり人間関係を壊^{こわ}してしまうのではないかと悩みながら、それでも少しずつ成長していく人間の様子が描かれている。
- オ 誰かわからない相手との文通を通して、周りの意見に流されがちな自分の短所を見つめ直すきっかけを得て、それを克服^{こくふく}していく人間の様子が描かれている。

③ それぞれの文章の内容から確実に正しいと言えることを、後に続くアウウの中から、記号であるだけ選びなさい。一つも正しいものが無い場合は、「×」と答えなさい。

(一) 足が短くてバランスの悪い姿や、また他の肉食獣にくしょくじゅうの食べ残した死体に群がり、強いあごで骨までかみくだくといった習性などから、ハイエナは不吉ふきつなイメージを人間に与あたえてきました。現在でも、アフリカの民話の中で他の動物と対比され、しばしば賢い知恵がしちえを働かせるものの、最後には敗者となる役割を与えられています。西アフリカのバンバラ人の儀式ぎしきでは、人々はハイエナの仮面をつけて役を演じますが、これは「真の知恵」を表すライオンに対し「偽いつわりの知恵」を表すものとされています。

ア ハイエナが不吉とされる理由の一つに、その見た目がある。

イ ハイエナは恐れおそられているので、民話の中でも賢い知恵で善良な動物を打ち負かしている。

ウ バンバラ人の儀式では、凶暴きょうぼうなライオンが悪役にんを担になっている。

(二) スポンジというのはギリシャ語から来た言葉で、もともとは海に生息する、岩にへばりつくカイメンという動物を指していました。カイメンはともも原始的な動物で、サンゴなどと同じように動くようすはほとんど分かりません。カイメンは体じゅうにたくさんの穴を持ち、ここから海水をとりいれて栄養をとったり、不要なものを体外に出したりしています。硬い骨かたをもたない一部のカイメンが、人間によって現在のスポンジのような使われ方をするようになりました。

ア 英語を使う国々では、現在「スポンジ」という言葉は通用しない。

イ カイメンは体が穴だらけであるので、動くことができない。

ウ すべてのカイメンが、スポンジのように使えるわけではない。

(三) ピアノの先祖といわれる楽器には、クラヴィコード、チェンバロ、ダルシマーなどがありますが、さらにその祖先をたどると、すべて一本弦の弦楽器に突き当たります。ピアノは、弦を響かせて音を出す楽器という意味では弦楽器的ですし、ハンマーが弦を叩いて鳴らすという面では打楽器の要素も備えています。そうした面からピアノの直接の祖先ではないかと思われているのがダルシマーです。ダルシマーは十一世紀に中近東からヨーロッパに伝えられた楽器です。台形の共鳴箱の上に弦を張っただけのシンプルなもので、その弦を小さいハンマーで打って音を出します。

ア チェンバロをもとに、一本弦の弦楽器が作られたと考えられている。

イ 弦楽器っぽい楽器と打楽器っぽい楽器の別々の二種類が組み合わさって、今のピアノになった。
ウ ダルシマーには、打楽器的要素がある。

(四) カバディはインドで生まれたスポーツです。各チーム十〜十二名で、各チーム七名がコートに入り二チームで争います。守備と攻撃を定期的に交代し、点数の多い方が勝利となります。まず攻撃側は、レイダーと呼ばれる攻撃者を一名選びます。レイダーが「カバディ、カバディ……」と発声し続けながら（この発声を「キヤント」と呼ぶ）守備側のコートに入り、守備側の選手にタッチして、そのまま早く自分のコートに戻ってこられればタッチした人数ぶんの点数が入ります。なお、レイダーのキヤントが途切れたり、レイダーが守備側の選手につかまったりすると、その攻撃は失敗となります。

ア カバディでは、チームの全員がコートに入り、力を合わせて競技に臨む。

イ レイダーが無言で守備側の選手にタッチしても、得点にならない。

ウ レイダーが守備側のコートにいるあいだに、攻撃が失敗することも考えられる。

(五) 世界の宗教別人口は現在キリスト教徒が最大ですが、二〇七〇年にはイスラム教徒とキリスト教徒がほぼ同数になり二一〇〇年になるとイスラム教徒が最大勢力になるという統計が出ています。二〇一〇年のキリスト教徒は世界人口の三十一%、イスラム教徒は二十三%でした。ところが二〇五〇年になるとキリスト教徒が三十一%のままなのに対して、イスラム教徒は二十九%まで増え、二つの人口はだいたい近くなります。二〇五〇年までの四十年間でイスラム教徒は七十三%増え、その増加率はキリスト教徒やヒンズー教徒の二倍以上に達します。

ア 統計では、世界でのイスラム教徒とキリスト教徒の人口がいずれ逆転すると予想されている。

イ 二〇五〇年には、イスラム教徒の人口がキリスト教徒の人口を上回ると予想されている。

ウ いつかはイスラム教徒の人口は、キリスト教徒の倍以上に達すると予想されている。

【問題は以上で終わりです】

①

(七)	(六)	(四)	(三)	(二)	(一)	
	非		i	i	d	a
	無	(五)		X		
			ii			
				Y	e	b
				ii		c

②

(十)	(九)		(五)	(四)	(三)	(二)	
	ii	i		i	A	d	a
	イ			ii	B		
			(六)			って	
	ロ			iii	C	e	b
			(七)		D		
	ハ				E		c
			(八)				
	ニ				(三)		
							まった

③

(四)	(二)
(五)	(三)

	得点
	受験番号

解答 (120点満点)

① (50点満点)

- (一) a 対象 b 補足 c 規定 d 提示 e 複雑
- (二) (i) X 前提 Y 結論

- (三) (i) O
- (ii) ウ

- (四) イ
- (五) イ
- (六) 非…イ 無…ア・カ (それぞれ完答)
- (七) ウ

② (50点満点)

- (一) a 声量 b 感謝 c 留(まった) d 背負(つて) e 一呼吸

- (二) A 手 B 耳 C 目 D 顔 E 胸

- (三) イ
- (四) i オ ii イ iii ア (完答)

- (五) イ・オ (順不同)

- (六) イ

- (七) ア

- (八) ウ

- (九) (i) エ・カ (完答)

- (ii) イ ようだつ ロ ような ハ ように ニ ようなら

- (十) エ

③ (20点満点)

- (一) ア (二) ウ (三) ウ (四) イ・ウ (五) ア

④ × 5

⑤ ① × 4

③

④

④

④

② × 2

③

④

① × 5

② × 5

⑥ ③ × 2

⑤

⑤

⑤

③

④

③ × 2

② × 5